

(阿久根市波留字鳥越)

位置と環境

古墳群は市街地南部、市役所から南東部約1kmにある標高15m程の丘陵の先端部に位置している。潟地区及び市街地を眼下に見おろし、西方には東シナ海も望める場所に所在する。

調査の経緯

平成元年、潟地区土地区画整理事業に伴う工事中に、古墳らしきものを発見したとの報告が本市教育委員会にあった。確認調査の結果、石室であることを確認した。平成2年・3年・7年・8年に5回わたった。調査面積は、約700㎡である。

遺構と遺物

平成元年に確認された石室は、古墳時代前期(4世紀)の頃のもものとされている(第3図)。石室は、長さ6.1m、幅3.3m、深さ90cmの穴を掘り、その中に安山岩の偏平板石を重ね、石室を作り、その上部を埋設している。石室内部は、長さ4.4m、幅0.7m、高さ0.75mの幅が狭く長大なものである。石室床面は長さ4.2m、幅55cm、中央部の深さ10cmを測り、割竹形木棺が置かれと思われる痕跡がU字形に凹んだ粘土床として残る。東側が西側より10cm程度高くなっていることと東側に赤色顔料(ベンガラ)を多く観察したことから、頭位は東側にあったと推定される。粘土床下部には、10cm程の厚さに小砂利を敷きつめ、粘土で覆ってある。石室壁面にも赤色顔料(ベンガラ)を認めた。

石室の天井石は、現位置を留めるものが3枚であるが、工事のさいに紛失したり、移動しており、本来は、7枚か8枚の天井石があったと考えられる。天井石の接合部には小ぶりの偏平石を乗せ、さらに黒色の粘土で被覆して部分もある。また、石室壁面最上段にも粘土被覆が認められる。

墳丘は、ほとんどの部分がすでに削平されており、全容を確認することは出来なかった。調査の結果、20~25mと推定される墳丘が確認され、旧地形図との確認を行ったところ、石室を中心とした円形の盛り上がりと一致したことから、円墳部が残存していた



第1図 鳥越古墳の位置

と思われる。しかし、前方部は確認することが出来なかったが、前方後円墳であった可能性もある。

遺物は、直径5mm、厚さ3mmの“鉛ガラス製の小玉”が1点、粘土床上から出土した。

2号~6号墓は、平成3年の3月、7号墓は、平成7年9月、8号・9号墓は、平成8年1月に確認し、1号墳から南西に40m程離れた台地上にあり、5~6世紀ごろの時期のもものと推定される。

2号墓(第5図)は、安山岩質の板石6枚により東西方向に長い、内法で90cm×65cmの石室を作っている。地下式板石積石室墓と考えられるが、葺石(蓋石?)は確認することは出来なかった。側壁上面より30cmのところ暗紫色の粘土質土での調整が見られ屍床面と思われる。

遺物は、南側側壁に沿って直刀一本が出土した。

3号墓(第4図)は、安山岩質の板石6枚により東西方向に長い、内法で105cm×65cmの石室を作っている地下式板石積石室墓である。床面には暗紫色の粘土質土による調整がみられ、その直上まで葺石が落ち込んでいる。

遺物は、落ち込んだ葺石中から鉄鏃1点、鉄器破片数点出土した。

4号墓(第7図)は、人頭大のチャートを中心とした礫を長さ2m程、幅1m程に楕円状に並べていたが、副葬品は確認できなかった。

5号墓(第7図)は、安山岩質の板石とチャートの礫が1m×70cmの土壌の中に落ち込んでいたが、副葬品は確認できない。

6号墓は、板石が数枚確認されただけであるが、

床面から暗紫色の粘土質土の広がり確認されており、2・3・8・9号墓の床面と同様の暗紫色の粘土質土の調整が見られることから地下式板石積石室墓であったと考えられる。

7号墓（第6図）は、攪乱を受け、北側及び西側の側壁は確認出来なかった。残った部分では内法で、90cm×70cmで安山岩質の板石で石室を作っている地下式板石積石室墓で、副葬品は確認されなかった。

8号墓（第9図）は、安山岩質の板石6枚により、内法で115cm×110cmのほぼ正方形の石室を作っている地下式板石積石室墓である。床面には、暗紫色の粘質土により調整がおこなわれ、その直上で遺物が見られた。遺物は、西側壁面に沿って鉄剣が1本、ほぼ真中から短剣1本が出土した。

9号墓（第9図）は、安山岩質の板石6枚により、南北方向にやや長い長方形で、内法で110cm×75cmの地下式板石積石室墓である。床面には暗紫色の粘質土による調整が行われ、その直上で遺物及び葺石が確認された。

遺物は、東側側壁に沿って直刀が1本、真中よりやや北側に鉄剣1本が出土した。

特徴

鳥越古墳群1号古墳は、初期畿内古墳の南限で、県内最古の高塚古墳である。さらに、同一丘陵上に南九州独自の墓制である地下式板石積石室墓がある。

1号墳は、4世紀中頃、地下式板石積石室墓は、5～6世紀と推定され、当時の支配体制の移り変わりや古墳文化の始まりを知る上で貴重な遺跡である。

遺跡の現状

鳥越古墳群は 区画整理事業の関係で現地近くの公園予定地に移設してある。将来公園内において、整備公開される予定である。

資料の所在

出土遺物は、阿久根市教育委員会に保管されている。

参考文献

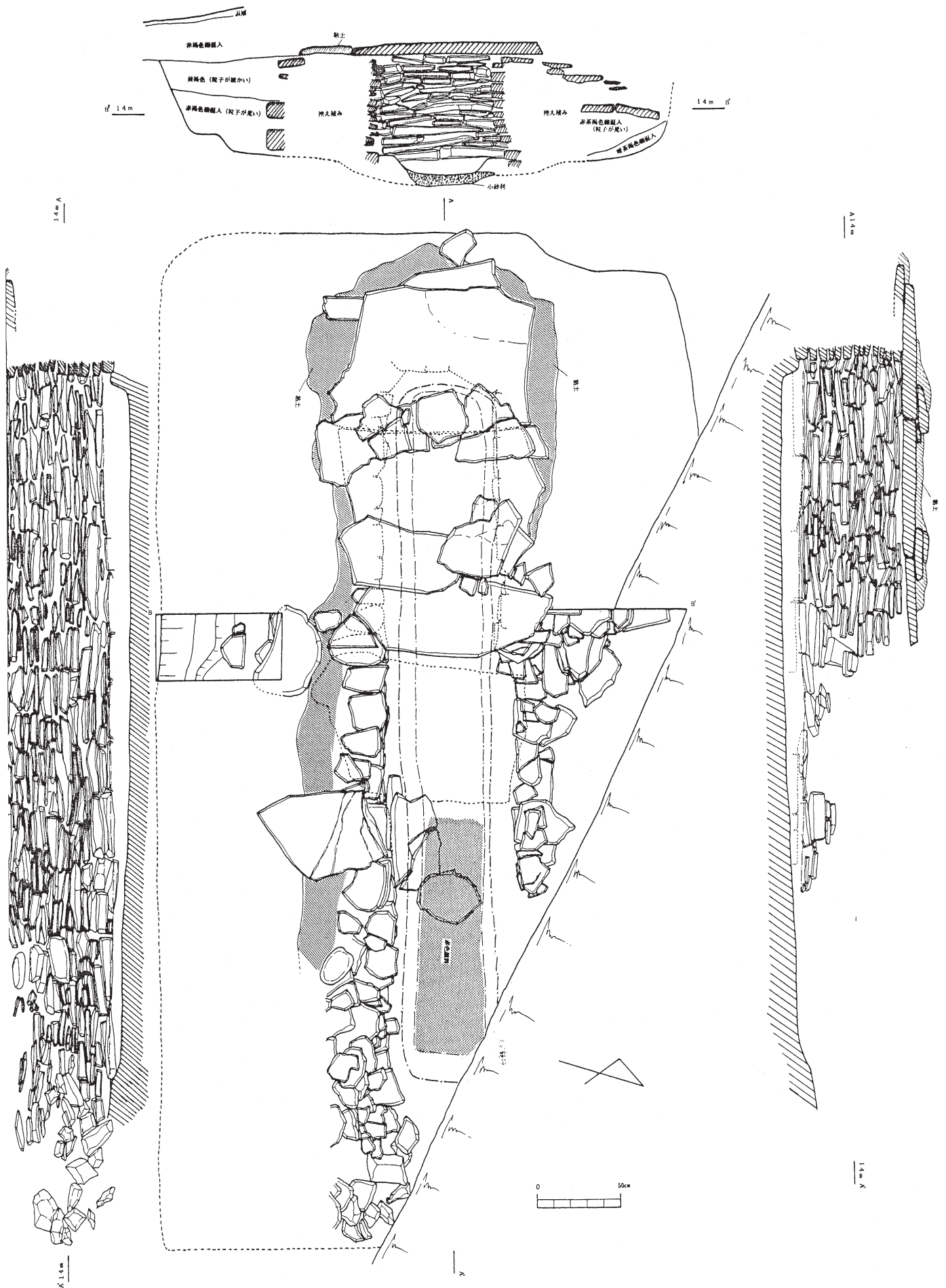
阿久根市教育委員会1992「鳥越古墳群」『阿久根市埋蔵文化財発掘調査報告書』2

阿久根市教育委員会1997「鳥越古墳群・大蔵庵遺跡・北山遺跡」『阿久根市埋蔵文化財発掘調査報告書』3

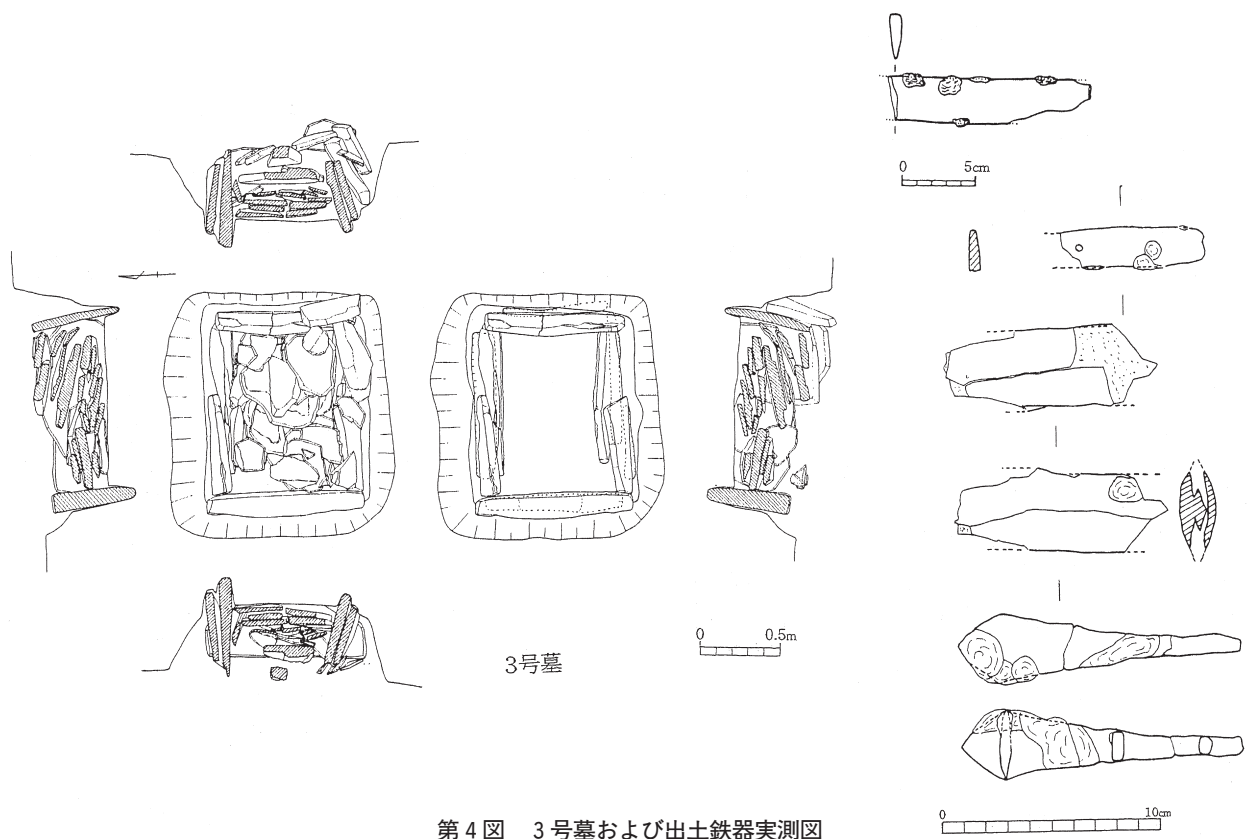
（河北篤司）



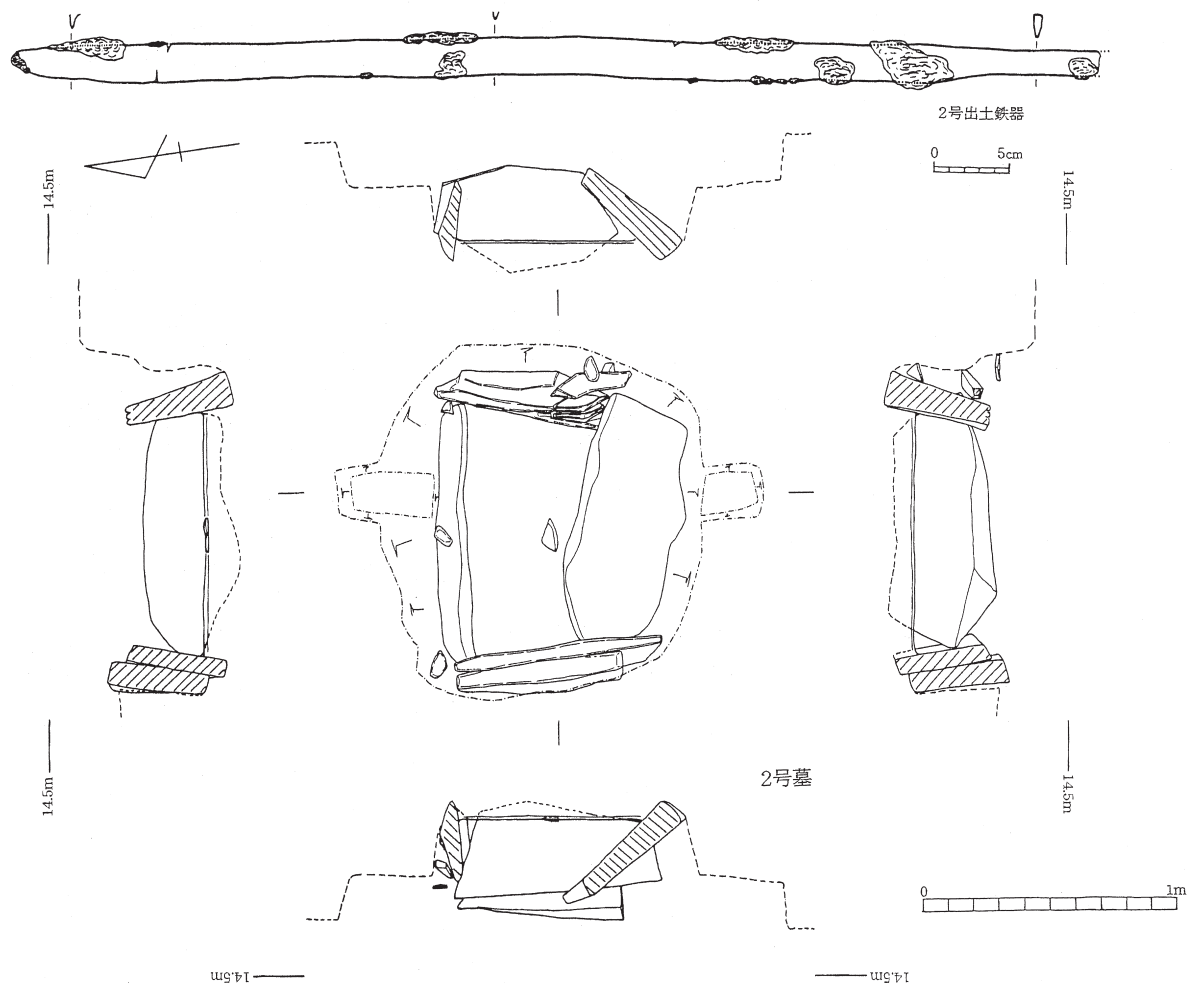
第2図 鳥越古墳周辺地形図



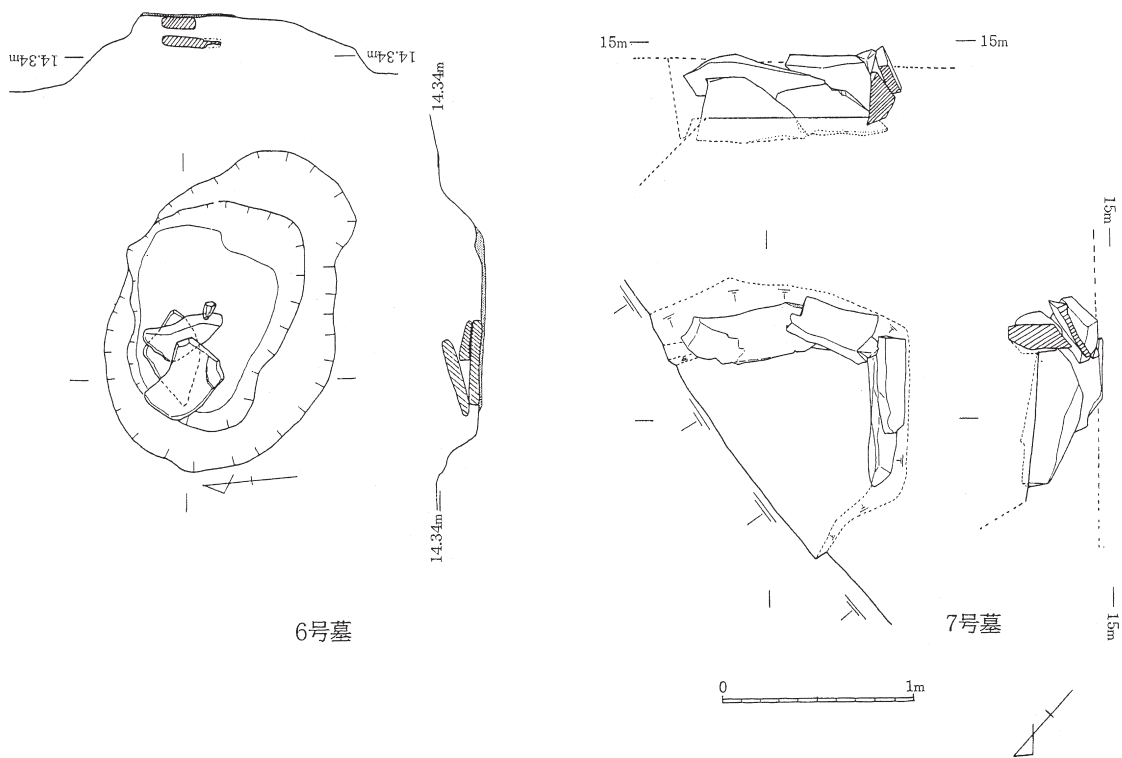
第3図 竪穴式石室実測図



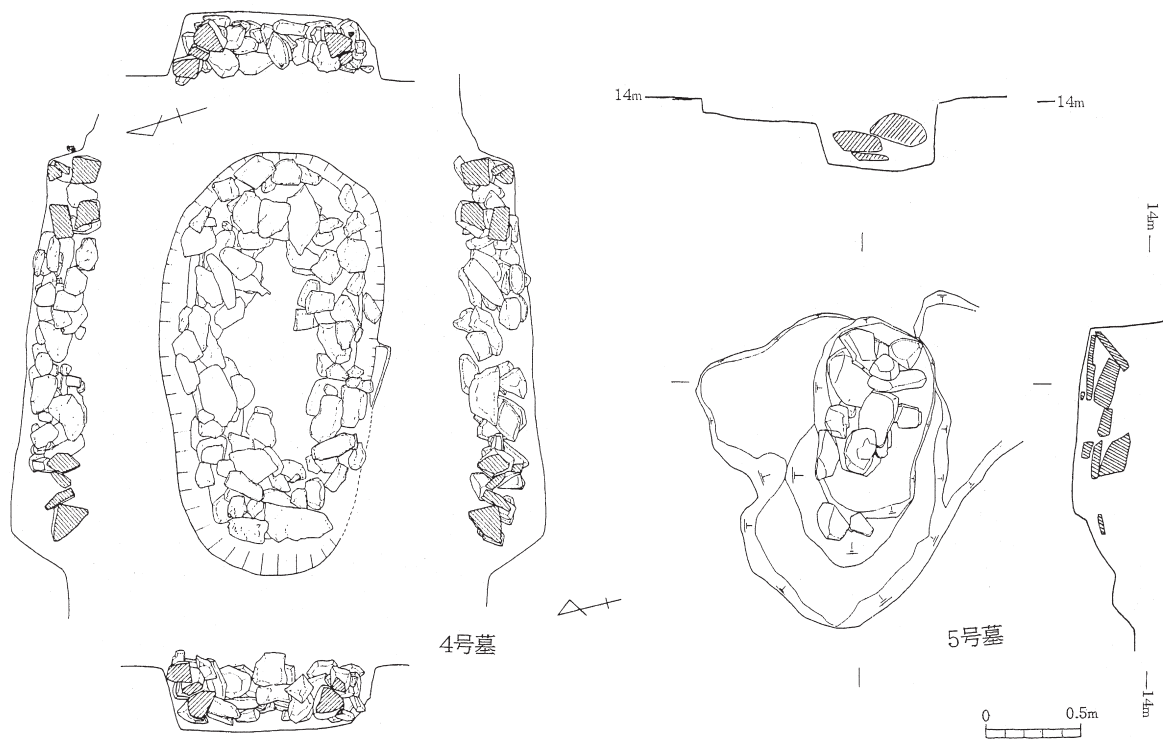
第4図 3号墓および出土鉄器実測図



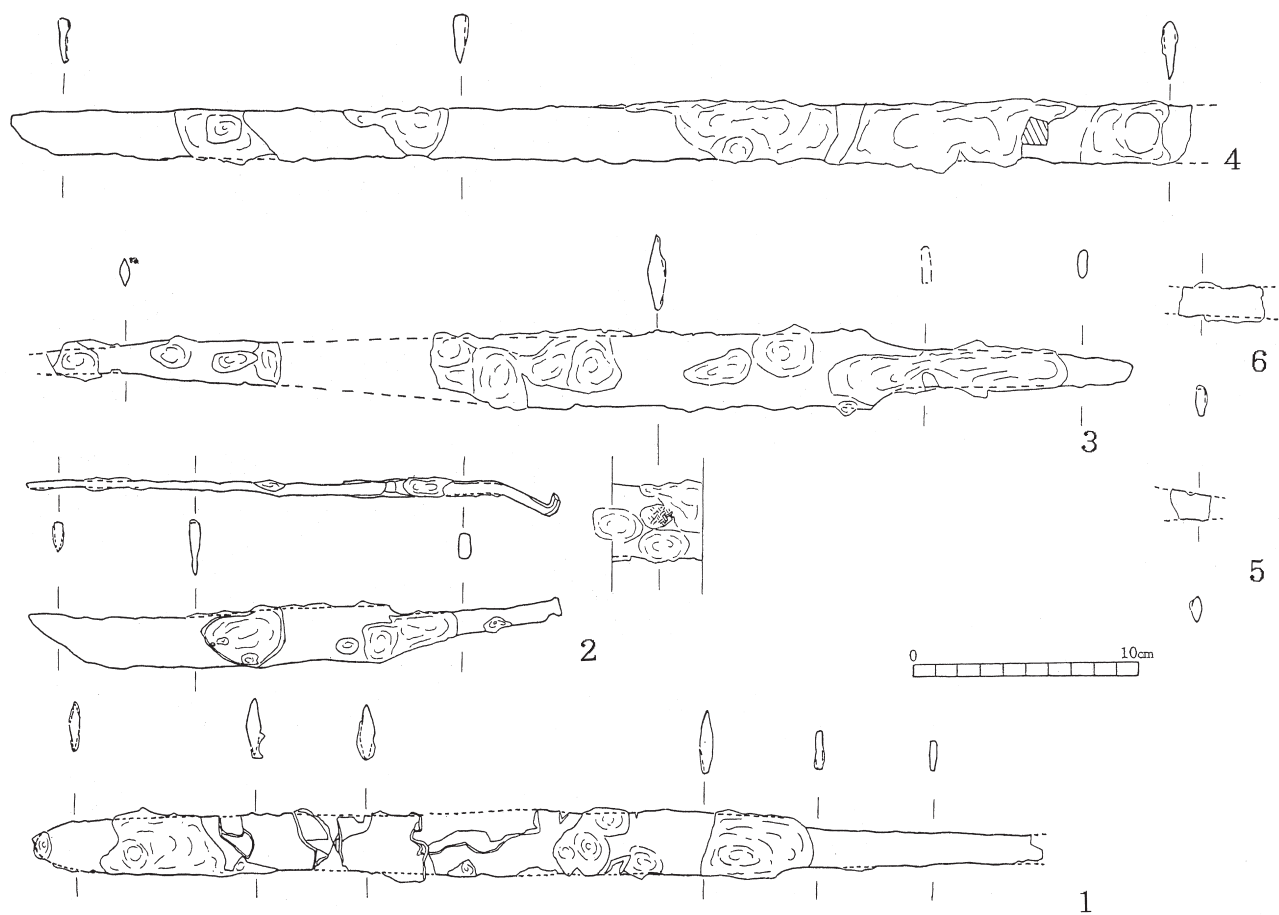
第5図 2号墓および出土鉄器実測図



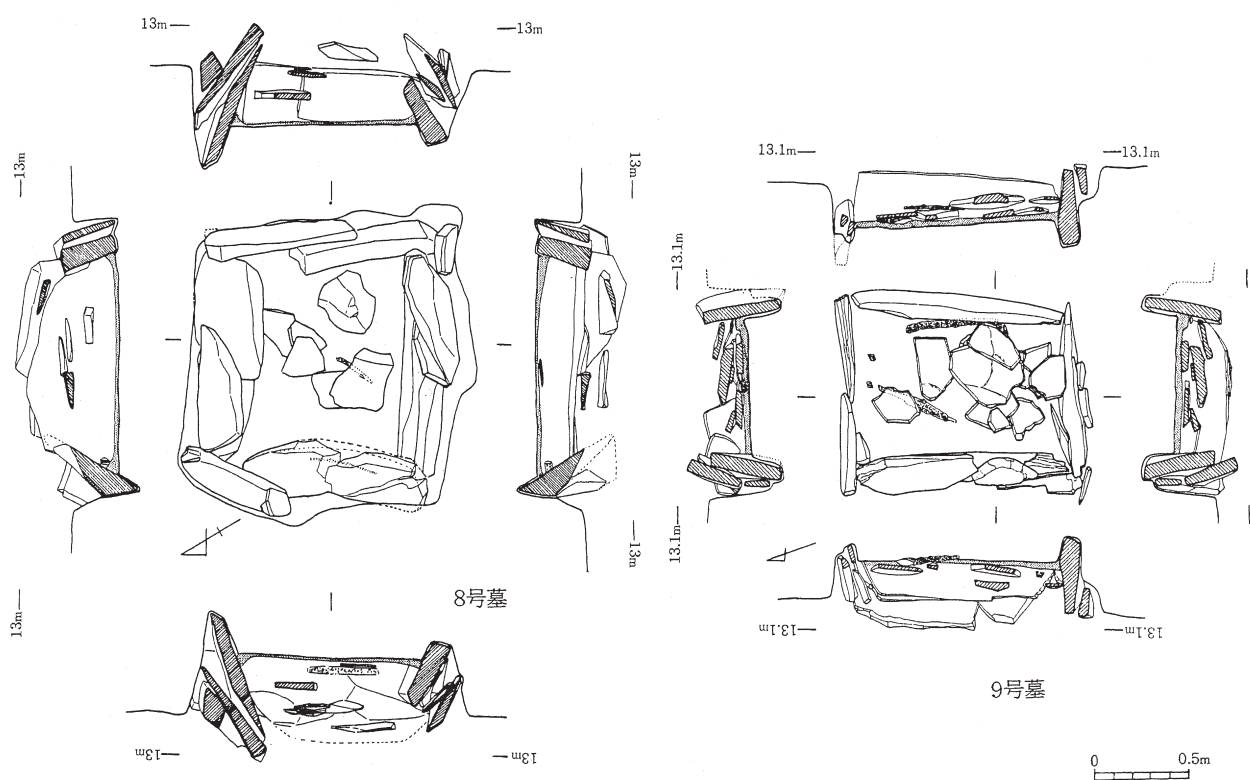
第6图 6号墓・7号墓 实测图



第7图 4号墓・5号墓 实测图



第8图 8号墓・9号墓 出土鉄器実測図



第9图 8号墓・9号墓 实測図